

応募締め切り
6月30日(水)

徳島新聞奨学生

キヨーエイ奨学生

徳島ハート奨学生

若者の夢を応援します

徳島新聞社会文化事業団では学業や人物に優れながら、経済的に大学進学が困難な生徒たちを支援する「徳島新聞奨学生」「キヨーエイ奨学生」を募集しています。また母子家庭を対象とした「徳島ハート奨学生」の申請も受け付けています。3つの奨学生とも応募締め切りは6月30日(水)。

現在、奨学生の給付を受けている大学生の数は3奨学生合わせて68人。奨学生たちは、どんな学生生活を送っているのか、奨学生をどう役立てているのか、将来はどんな社会人になりたいのか。コロナ禍の中、夢を持って勉学に励む奨学生たちに近況や今後の抱負を聞きました。

第46回の奨学生を受けていた徳島大医学部3年の山下太一さん(21)は現在、体内で生成されるステロイドホルモンをテーマに研究している。「今まで本で学習してきたことを実践するのは楽しくて刺激的だ」と語った。

新型コロナウイルスの影響で実習が中断したり、講義がリモート授業になつたりした。さらに昨年始めた飲食店の派遣バイトは、全国に緊急事態宣言が発令されたのを機にわずか1ヶ月で契約解除となつた。山下さんは「奨学生は医学書や参考書の購入に充てているが、アルバイトがしにくい状況なので地元学生にとつても受給できるのはありがたい」と話した。

救急科の医師を目指して勉強に励む山下さん。「南海トラフ巨大地震など近い将来に起ころうとする危機的状況にも対応でき、地域に求められるような医師を目指していきたい」と力を込めた。



第46期徳島新聞奨学生
山下太一さん (徳島大学
医学部3年)



第1期徳島ハート奨学生
橋本綾斗さん (千葉大学工学部情報工学コース4年)

【徳島ハート奨学生】

第一回ハート奨学生に応募した理由は。

かねてより大学に進学したいと思つています。しかし、両親が離婚し、母は病弱な祖母の介護などを一人でこなしているため常勤の仕事に就くことが難しく、収入が安定していません。そこで奨学生を申し込みました。

一大学ではどのようなことを研究していますか。

大学の研究室でCIT(コンピューター断層撮影)画像などの処理に関する研究をしていました。

一奨学生はどのように役立ちましたか。

生活費に充てました。おかげで資金面に悩むことなく、大学の課外活動に取り組むことができました。

一今後の目標を教えてください。

千葉大大学院への進学を予定しており、同じ分野の研究を行うことにしています。研究結果が実際の医療の現場で役に立つよう、日々自己研さんと研究活動に注力していきたいです。

感謝忘れず日々研さん



第1期徳島ハート奨学生
岸本美礼さん (英米文化学科英語)

一応募理由は。

母が外国人といつともあって英語に触れる機会も多く、大学でもっと英語を学び、将来的に海外留学をしたいと思っています。しかし、家庭の事情で経済的に余裕がなく、第一回奨学生に応募しました。

一大学ではどのようなことを学んでいますか。

イギリス・アメリカの歴史文化を勉強しているほか、日本語教諭になるための教授法を学んでいます。

一奨学生はどのように使いましたか。

入学金や学費に充てました。入学前に費用を準備しておく必要があり、保護者からの援助を受けられなかつたため、とても助かりました。

一今後の目標は。

たくさんの人々の支えがあつて今の私がいます。友人にも恵まれ、最高の環境で勉強させていただいています。この感謝の気持ちを忘れず、次は誰かの支えになれるよう日々まじめ進します。

コロナ乗り越え 勉学に励む



第46期徳島新聞奨学生
藤本志保さん (鳴門教育大学
教育学部3年)

第46回奨学生の藤本志保さん(21)は、鳴門教育大学教育学部の3年生。小学生の頃から先生に憧れ、英会話が得意だったことから中学校の英語教師を志している。現在は9月の教育実習に向けて模擬授業や指導案作りに取り組んでいる。休日や授業後は飲食店と家庭教師のアルバイトに精を出す。新型コロナウイルス禍では、飲食店が入る商業施設の休業に伴つて勤務シフトが激減し、アルバイトの収入が半分になることもあった。奨学生は通学のためのガソリン代や模擬授業で使う教材の費用に充てている。

藤本さんは「奨学生があるとアルバイトに時間がかけ過ぎずには済むので勉強に集中できる」と話す。今後の目標については「授業や家庭教師に力を入れ、実践力を高めて教員採用試験の合格を目指す。将来は生徒に一番近くで親身な先生になりたい」と語った。

ハート奨学生に寄せて

創設者 坂東ハートクリニック院長・坂東正章

徳島ハート奨学生制度は、母子家庭で育ち家計が苦しい中でも大学や専門学校への進学を目指している徳島県の高校三年生、高校認定試験合格者を対象にしています。給付対象者の選考は学校の成績だけではなく、学校生活の様子やどのような考え方で進学したいかという応募者の意志を確認して行われます。自分は将来このような道に進みたいと思いながらも、資金不足でそれが叶わないのは残念です。進学時にその準備費用として一人50万円を給付し、学生生活のスタートを援助しようとしています。

集まった寄付金額によって年度により給付者対象者が異なりますが、今年度は県内外から多くのご寄付を頂いたた



ではありませんでした。高校生の時、昼休みにお弁当箱を開けると、中には一面のご飯の中に梅干が一つだけ入っていることがあります。急いで弁当箱の蓋を被せ、周囲の学友に見られないようにして食べたことを覚えていました。

皆さんのお母さんも皆さんを育てるたために懸命に働いておられます。それは自分の老後を皆さんに期待することができます。

皆さんが皆さんの望む人生に進ませたいという強い思いと、無償の愛が根底にあるからです。徳島ハート奨学生制度だけではなく心からの応援メッセージを添えてくれていることを忘れないで下さい。この奨学生が皆さんのお夢達成の一助になればと期待しています。

【お問い合わせ】

公益財団法人 徳島新聞社会文化事業団

〒770-8572

徳島市中徳島町2丁目5番地2

TEL: 088-655-7365

FAX: 088-655-7395

ホームページ <https://www.tpshabun.or.jp/>

生命科学研究支援金 21日締め切り